

石原巖徹 いしはら けんてつ 支那民俗研究家、俳人、川柳作家。明治二十一年十一月七日青島縣生れ、昭和五十四年九月五日歿（八六—九七）。本名秋朗。別號三里、林君彦、沙人、石敢當、血淚堂、青龍刀。大正九年已降外務省、滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）、華北交通と終戦まで支那大陸に在勤。俳句は初め武田鶯塘主宰誌『南柯』に據り、次で白田亞浪の師事、俳誌『石楠』の幹部同人となる。引揚げ後新俳句人連盟に加はり、昭和二十六年より委員長を務めた。

著書に『雑談支那』（石敢當名、昭和十一年七月十一日撫順・月刊滿洲社）、『支那芝居と寄席の話』（昭和十四年九月一日奉天・滿鐵鐵道總局營業局旅客課「觀光叢書」）、『民國綺聞』（五版・康徳八年

二月二十奉天・吐風書房）、『大陸風物吟龍沙句帖』（石原沙人名、昭和二十七年九月一日山河發行所）、『平箱のうた』文・第1集（合著・平箱のうた）文編集委員會編、昭和二十八年四月十五日ハト書房）、『京劇讀本』（岡崎俊夫合著・朝日新聞社編、昭和二十一年五月二十一日朝日新聞社）、『新編・紅樓夢』（編訳、昭和二十二年一月二十一日春陽堂書店）、『くまぐり人生』（昭和二十五年二月一日日本週報社）等。

